

## 防災コーディネーター向けワークショップの結果

## 【 1 参加者 】

羽島市防災コーディネーター 46名

## 【 2 ワークショップ概要 】 ※別添資料 2-1、2-2

## ①座学

- 公助の話を脇に置き、自助・共助を考える。
- 行政は、大災害において国民一人ひとりの命を守る能力がない。
- 住民の防災活動の目標は、救助なのか。救助がいないことではないのか。
- 地震においては、既存建物の建て替え、補強がもっとも効果の高い防災

## ②家庭内 DIG ※別添資料 2-3

- 救助される側になっていないか。

## ③ワークショップ

- (1)気づいたこと、普段から思っていることを書き出す。
- (2)防災効果の獲得、維持をするには、を考えながら意見を書く。
- (3)クロスロードゲームを通じて自分ならどうするかを考える。
- (4)映像資料「消防団の10分ルール」を通じ、木曾川が洪水を起こした時の行動を考える。

- 安全確保をする時間を知っておく
- 行政が全市民の家を回って助けに来るわけではない。
- 渋滞に巻き込まれずに避難する方法
- 逃げられる人が、逃げない人を放置すると見捨てたと言われぬか。
- 逃げなかった人のせいで逃げられる人が巻き込まれる。
- 逃げないということは、他人を巻き込んで被害を増やす。

## (5)掘り下げて話したいテーマに分かれて意見交換

※次の項目参照

## (6)出た意見や取組みを、自助・共助・公助に分類する。

※◎自助・○共助・△公助

- 日頃の防災活動

- ◎△8 畳間の耐震工事
- ◎○△フェンスの倒壊防止
- ◎○△ブロック塀の倒壊防止
- ◎△古い家の倒壊防止
- ◎△空き家の倒壊防止
- 避難路の確保
- ◎安全帽の準備
- ◎ベッドに靴を置く
- ◎耐震金具の取り付け工事
- ◎タンスの転倒防止
- ◎タンスの転倒金具止め
- ◎常備薬など薬品の入手
- 近所の人とのコミュニケーション
  - ◎○あいさつ、日頃からの付き合い
  - ◎○△地域交流
  - ゴミ出しの時に声掛け
  - ラジオ体操を朝一緒に行く
  - 庭木の剪定を手伝う
  - 一緒に買い物に行きませんかと声掛け
  - 自治会加入率の向上
- 地域防災の取組み
  - △コミュニティセンターで活動するクラブへ防災講座ワンポイント
  - ◎○△食料の備蓄
  - △啓発物品、展示物
  - 日常から弱者の存在を共有しているか
  - 情報の伝達と共有
  - △要救助者発生時の対応、連絡先の把握
  - 地域内の自助行動を促進する方法
  - 自身が被災していたら助ける側になれない。
  - 手取り足取り訓練
  - 独居高齢者の把握
  - 常日頃から声掛けが大事
  - 避難先が分かると良い
  - 要救助者の寝室の場所について
  - ◎救助する側としての自覚

●人災を防ぐ

◎自分の安全を確保するには

◎○災害弱者への対応

◎自分の命を守る

○他人の命を守る

◎自分が一番必要な事を伝える

◎○携帯電話以外の情報手段の交換。近所共通の災害伝言ダイヤルの作成

◎自分は逃げる。途中で助けられるか。

○△自治会での命令系統は

◎△各家庭の個人情報

◎○どこに逃げるか

◎家族それぞれ避難すること

(7)キャッチフレーズを考える。

●自分を助けることは、他人を助けること

●みんなに1つずつ大切な命

●やる！と思えばやれる！

●自助共助、命を守る第一歩

●自助・共助の基本はコミュニケーション

●防災はじぶんのこと

●動け！

●命はひとつ

●自分は、自分で守る

●できることはある。1つだけでも良い。

●災害はいつ起こるか分からない。じぶんごととして考えよう。

●一緒に歩こう

●平素より助け合う近所付き合い

●自分の命は自分で守る。そのうえで、他人の命も守りたい

●身近な防災。命を守ろう防災

※付箋320枚